

JRバス関東オリジナル

国鉄デザイン復刻バス(青つばめ・赤つばめ)スケールモデル発売



販売価格 6,480円(税込)



販売価格 6,480円(税込)

国鉄高速バス 青い「つばめ」復刻デザイン

国鉄高速バス 赤い「つばめ」復刻デザイン



東京オリンピックが開催された1964年10月、日本で初めての高速バス誕生

戦前、戦後の省型バスは、おびき色を標準としていましたが、国鉄となり、クリーム色を主色に、窓周りとスカートを一色で塗り分けはブルー系色、量産向けは青みどり色を配していました。1960年代は、青色系、赤色系のデザインも採用され、高速バス開発にあたり青色系に統一されました。(国鉄にはJNR、国鉄の表記)このカラーは国鉄バスからJRバス開発のカラーに継承されています。

1964年10月5日	東京オリンピックが開催された年に、日本初の高速バス(全長10.5m)が誕生。試運転は行われず、赤を基調とした車体の高速バスであったが、国鉄バスの伝統的な青を基調としたデザインの高速バスが運行開始。
1969年6月10日	東京湾横断の東京・名古屋間、その後、東京と京都・大阪をノンストップで直結する特快バス「ホーム短」で運行開始。国鉄高速バスといえはじめての「つばめ」のイメージとなった。
1987年4月1日	国鉄バスからJRバスへ...

安全を第一に、「ありがとう」を乗せて



東京オリンピックが開催された1964年10月、日本で初めての高速バス誕生

高速バス開発のための試験車

高速バスは、従来の路線・乗り場バスではない高速運行に耐えうる必要があるため、当時の国鉄と自動車メーカーが共同で開発、高速運行試験を行いました。当時は高速試験車として、産直品白用紙を使った国鉄バス専用塗料(現在も当社の白塗料専用塗料として使用)で行っていました。前面には国鉄を象徴する「国鉄マーク」も施されていました。このバスは、試験車印で走り、カラーも含めて国鉄塗料は行いませんでしたが、現在の高速バスの基盤となった車両です。

1956-1964年	国鉄自動車専用道路(旧国鉄)が開設された(河津市、新井町)にて、日本初の高速バス運行開始に向け高速車の試験走行を開始。
1964年10月5日	国鉄バス開発が加速したデザインの高規格バスとなった。

安全を第一に、「ありがとう」を乗せて

【発売日】
2014年6月10日(火)
午前10時発売

【販売箇所】
東京駅
JR高速バスターミナル窓口

予約販売や通信販売はいたしません。窓口のみの発売とさせていただきます。

初回の販売数量が少ないため、お一人様、各種類 1個までとさせていただきます。